

1 フリートークテーマ

県立図書館として、サービスの向上や利用者の増にどう取り組んでいくのか

<サービス向上や利用者増につながる視点の例>

- ・「次もまた来たい」と思わせる図書館とは（図書館職員、蔵書・排架、施設設備などに関して）
- ・コロナ禍においても、安心して来館できる図書館とは。
- ・コロナ禍において、来館することなく受けたいサービスとは。
- ・遠方在住者を含め、県民が広く恩恵を受けることができるサービスとは。
- ・県民が身近に利用できる市町村図書館に対しては、どのような支援が必要か。
- ・趣味や教養だけでなく、日々の仕事や暮らしに役立つサービスとは。
（ビジネスパーソンや学生が仕事や学習・研究に使える、子育てや教育に役立つ、健康医療や法律に関する情報が入手できる などに関して）
- ・障害者や高齢者、外国人など誰もが使いやすい図書館とは。
- ・保護者と子ども、中高生、大学生が利用したいと思う図書館とは。
- ・図書館未利用者に、初めて利用してもらう契機となるイベント等は。

2 前回会議での委員からのご意見と図書館の対応

	委員意見	図書館の考え方
若者の利用	①学習においては、インターネットよりも、結局は、様々な情報が簡潔にまとめられている本による調査が有効であり、評価も高かった。このことに、若い世代に気づいてもらうことが必要。	児童、生徒もそうだが、それ以上に教える側の教員への意識付けも必要。団体見学などのタイミングを捉えて、教員の図書館利用を増やしていく。（児童図書研究室の利用促進、高校の団体見学など施設利用の促進）
	②若者はネット依存で本に興味がないという世の中の思い込みがあるが、そうではない。ネット社会にうんざりしていて、本を読む人はカッコイイという意識もある。一方で、自分で探して本を選ぶという習慣がないので、各人にふさわしい本の選択をアシストしてもらえればよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ティーンズコーナーという中高校生向けの展示の場があり、各部門や同世代の中高校生が多彩な壁面飾りとともにビジュアルに本を紹介、HPにブックリストも公開している。各カウンターではいつでも、個人の本の相談に応じており、一層周知してまいりたい。 ・まずは図書館や本に興味を持っていただくことが大切だと考え、そのための動機付けとして、SNSを通じた情報発信や学校への広報に力を入れていきたい。また、発信する内容も若い人を意識したものにするよう工夫していく。 ・図書の選択をアシストするためのマイライブラリー機能の周知については、若い人に限らず力を入れる必要があると考える。 ・また、Webで公開するテーマ別リストの充実、さらに来館時のきめ細かな読書相談への対応など、一つ一つの業務の中で若い人の利用につながるよう努める。
	③若者がSNSを見る基準は、誰がどこかへ行って、これが良かったという口コミや成功体験である。イベントの告知だけでは反応はない。行ってみてよかったという10文字でもよいので、若者からの発信、フィードバックが必要。	イベントの告知はもとより、実施した講座の様子などをSNSでこまめに発信して、若者が反応できる環境を作っていく。

	委員意見	図書館の考え方
小 中 高 校 生 の 利 用	④2年度に高等学校に提供したバナーを、各学校のHPに張ってもらうことが必要。倉敷市は大きな図書館があるのでそこで間に合ってしまうことが多いが、市町村図書館で満足しない人をどう取り込むか、ニーズを掘り起こすかが課題。	<ul style="list-style-type: none"> ・バナーについては、岡山県高教研学校図書館部会の司書部会で会合の都度依頼をしている。また、昨年からは県立の高校では学校図書館に統一の図書館システムを導入している。このシステムに検索用のポータルサイトがあるのでここにもバナーのリンクを張ってもらうよう依頼している。 ・各自治体の図書館で、新館として開館間もない図書館や小規模の図書館については、自治体内の小中学校へ十分な支援ができない場合があるが、このような場合には、当館の市町村図書館支援用図書を活用することで、自治体内の学校図書館へのサービスを充実することができる仕組みを作っている。また、今年度から小中学校の調べ学習用資料の整備も充実を図っているところである。
	⑤中高生の利用増には、ボードゲームやTRPG（テーブルトークロールプレイングゲーム）が有効である。	欧米や近年日本でもゲームの体験イベントや図書館資料として扱う取り組みがある。当館の収集基準ではボードゲームは収集せずTRPGは厳選対象としている。ゲームの扱いについては今後研究してまいりたい。
	⑥それぞれの市や学校でも図書館は充実できており、県立は差別化する必要がある。子ども向けのイベントについては、SNSだけでなく、教育委員会と連携して、学校に情報をながすべきだ。	県教委からの数多くの通知が市町村教育委員会に届く中で、県図イベント情報は優先度が低く、学校にイベント情報を流してもらうのは難しいと思われる。保護者に直接アピールできるよう、新聞・SNSの広報に力を入れていく。
	⑦GIGAスクール構想により、小学生に一人1台のパソコンということになれば、電子書籍の利用はしやすくなる。	電子書籍の導入については第4次中期サービス目標にも掲げており、各社のサービス内容や他館の状況などの情報収集に努めているところである。また、当館HPには調べ物に役立つリンクやデジタル岡山大百科など、ICTを活用した授業で有効に活用していただけるコンテンツがあるので、これらを一層充実させるとともに、PRに努める。

	委員意見	図書館の考え方
イベントの実施等	⑧この時期にここに来ればこれがあるという目玉が必要。福袋など新企画をどんどん出してみて、評価しながら、真に求められているものを展開していくこと。	毎年11月上旬に実施している図書館フェスタの他にも、利用者の意見を踏まえ、年間を通じて魅力的なイベントを計画していく。
	⑨北側の駐車場に立派なスペースがある。グランピングをして、怖いお話しをすとかのイベントがよい。	北側の芝生広場を活用して集客につながるようなイベントを検討していく。
	⑩最近、お気に入りの新刊本や古本を、個人がSNSで紹介し、みんな見ている。県立図書館で紹介している本をSNSでも発信すれば、チェックしやすい。	秋の図書館フェスタで開催している「みんなのオススメ本」をSNSで発信することを今後検討する。（今年度はまずはHPへの掲載を予定。）
	⑪遠方在住者の対策を考えてみれば、アイデアが出る。	インターネット予約での他館受取の周知やYouTubeを利用した講座、郵送貸出を検討する。
	⑫子育てに対して暖かいまなざしを職員一人ひとりが向けてくれると思ってもらえれば、新しい世代の利用者が増える。	赤ちゃんからカードを作り、家族で来館利用されることも多い。親子のふれあいを大切にした行事を行い、小さなお子様と一緒に利用しやすいよう職員、ボランティア、すべてのスタッフが引き続き心掛けていく。